

「あと数マイル・プロジェクト」推進検討会議（第5回）

令和7年11月11日

「あと数マイル・プロジェクト」各路線の課題と取組の方向性

1 答申路線

1-1 東京12号線

方向性：次期答申（令和13年頃）に向けて、事業性の確保などの課題解決を目指す

【沿線地域の現状】

- 人口は減少傾向にあり、沿線自治体では、立地適正化計画の策定による居住誘導区域の設定が進められている。
- 西武線、東武線にアクセスする道路の混雑が激しい。
- 新座市では、関越自動車道へのスマートインターチェンジの設置について第5次新座市総合計画及び新座市都市計画マスタープランに位置付けている。
- ところざわサクラタウンの来場者数は、令和6年3月末に累計400万人を突破した。また、所沢市では、新たに商業施設・エミテラスが開業した。
- 既設線の混雑率はコロナ後も依然として高い。

課題	取組の方向性
・ 将来を見据え、まちづくりのビジョンと鉄道の位置付けを整理	・ 都市計画や居住誘導の方針等を考慮した延伸計画の検討（2次交通の利便性向上の検討を含む）
・ 事業性（ $B/C > 1$ 、収支採算性）の確保	・ 新駅周辺のまちづくり計画の深度化、乗換利便性の向上、その他便益向上につながる取組について検討するとともに、建設コストの精度向上を図る。
・ 詳細な延伸ルートの特査	・ 効果的、効率的な延伸ルート等の検討
・ 混雑率上昇への対応	・ 混雑緩和につながる取組の検討 ・ 逆方向（東京→埼玉）の移動需要創出の取組の検討
・ 整備手法の具体化	・ 事業スキームの検討及び関係機関との調整
・ 国の次期交通政策審議会への対応	・ 関係自治体との連携・調整

「あと数マイル・プロジェクト」各路線の課題と取組の方向性

1 答申路線

1-2 東京8号線

方向性：次期答申（令和13年頃）に向けて、事業性の確保などの課題解決を目指す

【沿線地域の現状】

- 人口は、減少傾向にある地域が多く、沿線自治体では、立地適正化計画の策定による居住誘導区域の設定が進められつつある。
- 東埼玉道路は令和7年6月までに、起点である八潮市から松伏町までの9.5kmが開通した。
- イオンレイクタウンは、駅から近く、東京と直結することで利用者が増加する可能性がある。
- 越谷いちごタウンやキッコーマンもの知りしょうゆ館など、インバウンドのニーズがあると考えられる集客施設を有している。
- 関係自治体により構成される期成同盟会では、新駅周辺のまちづくりの検討が進められている。

課題	取組の方向性
・ 将来を見据え、まちづくりのビジョンと鉄道の位置付けを整理	・ 都市計画や居住誘導の方針等を考慮した延伸計画の検討（2次交通の利便性向上の検討を含む）
・ 事業性（ $B/C > 1$ 、収支採算性）の確保	・ 関係自治体が連携したまちづくり計画の深度化、乗換利便性の向上策、その他便益増加につながる取組について検討するとともに、建設コストの精度向上を図る。
・ 詳細な延伸ルートの特査	・ 効果的、効率的な延伸ルート等の検討
・ 他都県と連携した事業スキーム等の検討	・ 延伸の根源となる都内からの整備を前提とした事業スキームの検討と関係機関との調整
・ 国の次期交通政策審議会への対応	・ 関係自治体との連携・調整

「あと数マイル・プロジェクト」各路線の課題と取組の方向性

2 未答申路線

2-1 日暮里・舎人ライナー

方向性：既設線延伸の意義を確認するとともに、新たな交通システム導入等も検討

【関係地域の現状】

- ・ 技術的側面において実現可能な複数のルートを設定し、検討を進めている。
- ・ いずれのルートも比較的人口密度が高い地域が多く、移動需要は高い。
- ・ 既設線の混雑率はコロナ後も依然として高く、東京都や足立区はバスを活用した対策を検討中である。
- ・ 住宅が密集しており、延伸に当たって必要な道路の拡幅など、導入空間確保は容易ではない。

課題		取組の方向性
延伸	・ 既設線(新交通システム)延伸の意義の再確認	・ 事業性（B／C、収支採算性）、工期、事業効果、道路の状況等から総合的に延伸の意義を検討し、延伸ルートを絞り込む
	・ 延伸ルートの絞り込み	
	・ 混雑率上昇への対応	・ 混雑緩和につながる取組の検討 ・ 逆方向（東京→埼玉）の移動需要の創出
新たな交通	・ 導入の意義の確認	・ 移動需要や公共交通の現状等から導入の必要性を検討
	・ 交通モードの選択とルートの絞り込み	・ 事業効果、コスト、工期、道路の状況等を確認し、交通モードやルートを絞り込む
共通	・ 道路部門との連携	・ 道路街路事業としての可能性の検討

「あと数マイル・プロジェクト」各路線の課題と取組の方向性

2 未答申路線

方向性：既設線延伸の意義を確認するとともに、新たな交通システム導入等も検討

2-2 多摩都市モノレール

【関係地域の現状】

- ・ 技術的側面において実現可能な複数のルートを設定し、検討を進めている。
- ・ いずれのルートも、西武線沿線以外の人口密度は低い。将来の居住誘導区域に設定されている地域は少ない。
- ・ 東京都事業区間（上北台～箱根ヶ崎）については、令和7年5月に軌道法に基づく特許を受けた。東京都では、2030年代半ばの開業を目指し、工事着手に向けた手続を進めている。
- ・ 西武球場や西武園ゆうえんちなどの観光・集客施設や、多摩湖、狭山湖などの地域資源を有しており、観光地としてのポテンシャルが高い。

課題		取組の方向性
延伸	・ 既設線（モノレール）延伸の意義の再確認	・ 事業性（B／C、収支採算性）、工期、事業効果、道路の状況等から総合的に延伸の意義を検討し、延伸ルートを絞り込む
	・ 延伸ルートの絞り込み	
新たな交通	・ 導入の意義の確認	・ 移動需要や公共交通の現状等から導入の必要性を検討
	・ 交通モードの選択とルートの絞り込み	・ 事業効果、コスト、工期、道路の状況等を確認し、交通モードやルートを絞り込む
共通	・ 道路部門や観光部門との連携	・ 道路街路事業としての可能性の検討 ・ 観光施策との連携
	・ 資金調達（観光鉄道としての導入の場合）	・ P F I 等活用の検討